
いわくつきのコンビニ 『煙草客』

京谷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いわくつきのコンビニ 『煙草客』

【Nコード】

N1151W

【作者名】

京谷

【あらすじ】

夜勤者にはかならずお守りが配布されるといふ、曰く付きのコンビニ。
しかし、一人の新人アルバイトはお守りを身につけずに、深夜仕事をしていた。

ある日、病欠が出て、その新人は初めての一人夜勤をすることになる。
そこへ、煙草を買いに来る常連客がやってくるのだが……。

(前書き)

怪談ホラー。ショートショートです。

俺？フリーターです。メインの仕事は今ところコンビニのバイトなんですけど。

そのコンビニなんですけどね、朝から終電まで、かなり忙しいんですよ。

特に、色んな商品が納品されてくると、帰宅客で混む時が重なる時間帯……夜九時から深夜一時くらいまでの間は六、七人くらいバイト雇ってるんですよ。

結構すごくないですか？俺は夜十一時から八時までの夜勤で雇われてたんですけど、まあ夜勤は、クソ忙しい時のレジは免除って感じです。

客が引けるまで、納品された商品の品出しとかがメインの仕事になるんですよ。

レジが三台ある店なんですけど、六、七人バイトがいるわけだから、その間一切レジにタッチしなくてよくなるんですよ。

そうなる超楽なんですよ。すげえ忙しいけど、結局、コンビニのバイトで一番しんどいのってレジ接客ですからね。ムカつく客とかに当たるとテンション下がるし……。

で、客数が思いっきり減る深夜帯は二人夜勤体勢で、時給は千五百円。

これはいいバイト先見つけたなって、喜んでたんですけど、ちょっと気になることもあって。

研修期間だった夕勤のシフトから、初めて夜勤に移った時、出勤すると珍しく夜にはもう帰宅してるはずの店長がいて、「夜勤する時はこれ身につけてて」ってお守り渡されたんですよ。

なんか、先輩の夜勤の人に聞いたら、夜勤者には全員配布されるらしくて……。

最初はビビりましたよ（笑）。「え、なんだよ。そういういわく

つきの店かよ」って。

でも二人勤務だから、心細いつてことはないし。

最初の三ヶ月くらいですかね。そのころは週に三日、夜勤をやったんですけど、なんにも変なことは起こらなかったんですよ。

でも、先輩の夜勤の人に聞いたら、結構、他の夜勤者は奇妙な経験してるらしいんですね。

誰も通つてない、外を確認しても人がいないのに、自動ドアが何かに反応して開いたり。

事務所で休憩中、ふと防犯カメラ除いたら、ヘンテコな、人の形をした影みたいなのが映ってるから、急いで店内に戻って見渡してみただけど、相方のバイト以外は誰もいなかったり。

まあ、怪談話にするにしても、薄すぎるネタだと思っんですけど、そういうことがちよくちよくあるらしいんですね。

でも、俺は靈感ゼロなのか、そういうの全然遭遇しなかったんですよ。二十なん年間、今まで生きてきて、幽霊見たなんて経験もないですしね。

そんなんだから、渡されたお守りも事務所に置いてあるバツクの中に放り込んでました。

でも……夜勤初めて三ヶ月ぐらい立つたある日とのことです。

その日、相方の夜勤の人が急病で休んじゃって。

初めて一人夜勤することになったんですよね。

さつき話したように、お守り渡されるような店だし、不安といっちゃ不安でしたけど、それよりも仕事を一人でこなさなきゃいけないのがしんどいなあっていう、そういう思いの方が強くて、一時を過ぎて、他のバイトの人がみんないなくなった時はそういう意味でげんがりしてましたね。

で、レジやりながら、ホットスナックの陳列ケースや中華まんの什器を洗ったりしてたんですけど。

二時半になつたあたりからトイレに行きたくなっちゃったんです

よ。

一人勤務だから、お客さんのいないタイミング見計らって、行くと思うんですけど、その日は何故かバラバラと来客が途絶えなくて……。

一番来客数が減る、三時を過ぎたあたりで、やっと店内の客数がゼロになったから、レジに鍵を掛けて、トイレに行こうとしたら、自動ドアが開いて。

一人のおじさんが入店してきたんですよ。

そのおじさん、よく来る人で、煙草だけ買いに来るお客さんなんですけど……こう言っちゃ悪いけど、不気味でみすばらしい格好でしてね。

小柄な体で、背筋は曲がってて、髪はボサボサで、いつも大きなマスクをしてるんですね。体をずっと洗ってないのか、近くに寄っただけで漂う体臭もすごくて。

その体臭がまた、なんていうかこう、めっちゃくちゃ酸っぱい臭いで、「汗臭さ」ってレベルじゃないんですよ。嗅いただけでちょっと吐き気がするくらい。

しかも、レジに来た時、煙草の名前も、陳列ケースの番号も何も言わない。

いつも黄ばんだシャツの胸ポケットから空のマイセンライトのソフトケースを取り出して、それを無言で指差すんですよ。

で、お金出して、精算して、煙草とレシート受け取る最初から最後まで一言も喋らず帰っていくんですね、いつも。

その時も、おじさんは入店するなりすぐにレジの前に来たから、俺、かなり苛ついた気持ちでレジに戻りました。

そしたらおじさん、いつものように胸ポケットをまさぐるんですけど、その日は煙草の空箱が無かったみたいですね。上着やズボンのポケットとかも探してるんですけど、空箱が見つからないらしくて。

まあ、こっちはマイセンライトのソフトを買う人だって憶えてる

から、その煙草をこっちから差し出してあげれば良かったんですけど……俺は元々あんまり好きじゃなかったんですね。煙草だけ買う常連客で、「いつもの」みたいな感じで銘柄を言ってくれないお客さん。

特にその時は尿意を我慢してたから、（いや、口で言えよ！）って心の中でキレちゃいましたね。

だから、おじさんの様子を黙ってずっと見てたんです。そして少しずつ、あたふたと空箱を探し続けるんですよ。尿意を我慢していると、一人夜勤で忙しかったのもあって、そのおじさんに対する不快感がマックスになった俺は「煙草ですか？ 銘柄が番号言ってくださいよッ」って言っちゃったんですね。

そしたらおじさん、ハツとしたようにこっちを見て……。

「四番の煙草」

って言ったんですよ。めっちゃくぐもってる、濁った声で。

そしたら、直後にゴボゴボっていう音がして。。

おじさんのしてたマスクが、真っ赤に染まったんです。

血でした。ちょっと黒っぽい血。顔下半分を覆ってる大きなマスクが一瞬で染まるくらいの量でした。

最初、思考停止でした。え、なになに、どういうこと？ みたいな感じで。

おじさんは自分が血を吐いたことに気づいたみたいで、手で口をおさえたんですが、血は止めどなく溢れて、おじさんの服を汚してポタポタと滴って。。

だんだんお守り渡されてることや、バイトの先輩から聞かされた怪現象のことか思い出して、心臓がバクバクしだして……。

それでもなんとか、振り向いて四番ケースのマイセンライトのソフトをカウンターに置きました。

おじさんは、口を手で押さえながら、もう片方の手で煙草を取っ

て胸ポケットに入れると、お釣りのないちょうど金のカウンターに置きました。

それから申し訳なさそうにお辞儀して、店から出ていきました。何度かこつち振り返って、何度も何度もお辞儀して……。

俺は、そつから先の記憶が、ちよつとあやふやで……多分、立つたまま、しばらく硬直してたんだと思います。いや、おしっこは漏らしませんでしたよ（笑）。むしろ完全に尿意が引っ込んでました。五分か十分か放心状態だったと思います。それからそのおじさんが置いていったお金を、最初は触るの躊躇したんですけど、恐る恐る拾ってレジに入れて……その時ハツとして、レジ前の床を見たんですけど、床に飛び散ってるはずの血はまったくありませんでした。自動ドアの方を見ても、床には一滴の血も落ちてなかったです。

今でもそのコンビニでバイトしてます。なんていうか、後になつてからですけど、怖いっていうより、申し訳なかったなって気持ち強いです。血を吐いたことより、何度も何度もお辞儀するおじさんの姿が印象強くて……。

なんであんな意地悪したんだろう。マイセンライトのソフトをこつちから出してあげれば、なんでもなかったのに、つて。

それ以来、そのおじさん店に来てないんですよ。夜勤者の間では結構有名人だったんですけど、俺が勤務してる以外の時間帯でも姿を見ないそうです。

つーか、なんだったんすかね、あのおじさん……。幽霊？ 化け物？ もしかしたら普通の人間だったのかもしれない……。でも床に落ちたはずの血が消えてたっていうのは説明がつかない。

とにかくそれ以来、無愛想な客にも、丁寧な接客をするように心がけてます。

あ、あと、さすがに一人夜勤になった時は、渡されたお守りを肌身離さず持つようになりました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1151w/>

いわくつきのコンビニ 『煙草客』

2011年9月3日03時34分発行